

## 祖父の農業への熱い思いを受け継ぎ就農

東近江市 たなへ やすはる 田邊 靖晴さん

イチゴの少量土壌培地耕による観光イチゴ園の経営を目指し、平成28年4月に東近江市伊庭地先において農業を開始された認定就農者・田邊靖晴さんを紹介します。

就農のきっかけは、「祖父の病気入院時に、祖父が培ってきた農業についての熱い思いと、孫である私に農業を継いでほしいとの思いを聞いた。農業とは関係のない自動車関連企業に就職し整備士をしていたが、日頃より地元人が集い、地域の良さをPRして活性化する様な仕事をやってみたいと考えていたことが自身の中で結びつき就農を決意した」とのことでした。



イチゴの状態を確認する田邊さん

田邊さんは、就農にあたり当センターに相談される中で、イチゴ栽培についての経験、知識や技術等が十分でないため、滋賀県立農業大学校において一年間勉強する道を選ばれました。現在、ビニルハウス（1,200㎡）で、「章姫」あきひめ「紅ほっぺ」べに「桃薫」とうくんの3品種を主体に栽培されています。他の観光イチゴ園との差別化を図るため、桃に似た芳醇な香りで今までのイチゴとは違った風味が楽しめる「桃薫」に注目し、地域に先駆けて導入されました。「桃薫」はイチゴ狩りに訪れたお客さんに好評であり、リピーター客も多いとのことでした。

また、地域のリゾート施設と契約し、安定した集客を確保しつつハウス内を土足禁止にし、見た目にもきれいに保つことで『清潔な農業』のイメージを作るとともに、テーブルとイスも設置され、老若男女を問わず楽しめるよう心掛けておられます。さらに、イチゴ狩りの期間中は、生物農薬を活用することで減農薬に努められ、安全・安心な商品を提供できるよう、直接見えない部分への取組もされています。一方、観光イチゴ園が終了する6月以降のイチゴを有効活用した農産物の6次化を模索されています。農業大学校で栽培経験は積まれたものの、自らの判断による初めての栽培に苦労されることもありましたが、当センターからは定期的にハウスを訪問し適期栽培管理の実施に向けた支援を行うとともに、同じ品目を栽培されている仲間からのアドバイスを受けながら、一生懸命に栽培されています。

若くて活気のある田邊さんの今後の展開が期待されます。



「清潔な農業」イメージのハウス内



桃に似た香りの「桃薫」